

ミシガンでの研究生活

University of Michigan

中島 啓裕

(国立循環器病研究センター)

はじめまして。私は、2020年8月1日より米国ミシガン州アナーバーにある University of Michigan の Emergency Medicine で補助循環装置を用いた心肺蘇生の研究を行っております。ミシガン州は中西部に位置しており、五大湖のうち4つに囲まれているミトンのような形をした州です（現地の方は市を示す際に右手の平に喩えて説明します）。大学が中心に位置するアナーバー市は人口の80%以上の方が大学関係者を占める学園都市で、緑豊かな美しい街です。夏は25℃程度で湿度も高くなく非常に快適で、キャンプやカヌーなど多くのアウトドアレジャーを満喫できます。広葉樹が多いことから秋は紅葉が非常に美しく、アップルサイダーミルという伝統行事もあります。一方、冬期（1～2月）は気温が-10℃程度まで下がり非常に寒さが厳しいですが、雪景色やウィンタースポーツを楽しめます。日本食材が比較的手に入りやすい留学生に優しい環境です。

本留学ですが、時期的に SARS-CoV-2 の世界的流行の影響を強く受けております。当初は2020年4月1日に渡米予定だったのですが、その2週間前（まさに退職日）に延期の連絡が来ました。民泊を長期レンタルしつつバイトで生計を立て当初はいつ留学できるかわからない状況でしたが、6月より徐々に研究が再開され突然ラボのボスから8月1日に渡米するよう伝えられ、非常にバタバタした出発となりました。渡米後も SARS-CoV-2 のためほぼ全ての手続きが電話や予約制に変更されるなど苦労することもありましたが、おかげで度胸はついたとポジティブに楽しめております。

肝心の研究に関してですが、8月以降は制限付きであるものの研究はほぼ通常通りに再開されていきました。所属先のラボは、蘇生科学の研究で全米有数の業績を有しており、特に近年は日本ではなかなか経験できない難治性心停止モデルの大型動物を用いた研究を行っております。また、ラボの垣根も低く他のラボとの共同研究も盛んです。私も Emergency Medicine に所属しながら、経皮的人工心肺装置（ECMO）の研究で世界をリードしている ECLS ラボや Cardiology と共同プロジェクトを行っております。日本では臨床研究しか経験がなく動物実験は初めての経験でしたが、こちらでの研究の進め方は自主性に任されています。また、研究の相談などはメールなどで済まらず、すぐにミーティングをセッティングする点も印象的でした。SARS-CoV-2 の影響でカンファレンスなどは全て Zoom に切り替わっていて寂しい部分もありますが、ミーティングのセッティングをスムーズに行うことができるのは良い部分ではないかと思えます。

間もなく渡米後1年が経過します。日本でSARS-CoV-2による医療崩壊が危惧された時期に留学することに対して、非常に悩んだ日々もありました。しかしながら、米国での研究に対する姿勢や体制、生活面での経験および多くの出会いは、今後の医師人生の大きな糧となりました。残りの留學生活も多くのことにチャレンジし、帰国後も蘇生科学の発展に貢献していきたいと思ひます。最後に、本留学に際してご支援頂きました上原記念生命科学財団並びに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



秋のアナーバー